



— あいさつ —

北部地域住民自治協議会
副会長 草 薊 光

昨年5月16日の総会において、当協議会の副会長に就任いたしました飯島地区町内会連合会長の草薊でございます。飯島に住んで四十数年、子供が生まれ育ち独り立ちし、多くの方と知り合うことができた北部地域の為に、微力ではありますが、少しでも恩返しが出来ればとの思いから、お引き受けいたしました。

さて、当協議会は、市役所の支所機能と災害時の避難場所や防災拠点などの機能を併せ持つ、北部地域の拠点施設である北部市民サービスセンター「キタスカ」の指定管理者として、施設の貸し出し業務のほか、地域住民の結びつきを深める各種自主事業を実施しております。

昨年は、5月から新型コロナウイルス感染症も感染法上の位置づけが季節性インフルエンザと同じ5類に移行され、ようやく制限のない自主事業が実施できるようになり、メイン事業であります「第11回キタスカまつり」では、来館者数が2日間で1,934人と前回より620人以上増加するなど、賑わいを取り戻すことができた年でもありました。とはいえ、記録的な猛暑と7月の大雨被害など、自然災害の脅威にさらされた一年でもありました。今年こそはと思っていた矢先、元日の夕方に「令和6年能登半島地震」が発生し、建物の倒壊や大規模な火災による甚大な被害を目の当たりにすることとなり、被災された皆様が各避難所などにおいて、復興のため励まし合い、活動している様子を拝見し、当協議会の自主事業が、普段触れ合うことが少ない地域や近隣の人々との交流を深め、助け合える関係を築くなど、地域の総合的な防災力向上にも大きく貢献しているものと思っております。

終わりに、令和7年には、キタスカ開館15周年を迎えることから、会長を委員長とする「キタスカ開館15周年記念事業実行委員会」を設置し、地域の皆様に喜んでいただけるような講演会・祝賀会等の開催に向け検討を始めておりますので、今後とも当協議会に対しますご支援・ご協力をお願い申し上げます、就任の挨拶といたします。

令和5年度 施設利用状況(令和5年4月1日～令和6年2月29日)

◎利用者総数：100,642名

《内 訳》

- ・地域文化ホール：34,704名
- ・その他部屋：32,644名
- ・展示ホール：6,252名
- ・体育館：27,042名

1日平均264名の皆様にご利用いただきました！



J A 秋田厚生連 秋田厚生医療センター共催事業

第2回 キタスカ地域住民講座

元気に過ごすためのヒント！

「消化器・呼吸器のがん診療について」

日時：令和6年2月17日(土)13時半～15時



コロナ禍もあり、6年ぶりの開催となったJ A 秋田厚生連 秋田厚生医療センターとの共催事業「第2回 キタスカ地域住民講座」では、講師に院長の柴田 聡先生、消化器内科診療科長の小林芳生先生、呼吸器内科診療科長の守田 亮先生をお招きし、「消化器・呼吸器のがん診療について」をテーマに行われました。

柴田院長先生からは、現在のがん診療、手術技術については昔と今を比べると地域差はないが、医師不足から手術件数を増やすことができず若手医師も指導医の多い都会へ流出してしまっているため、今後は各科の専門病院を作る等医療改革が必要というお話がありました。

小林先生からは、秋田県でも死亡率の高い大腸がんについて、症例や治療の方法等を実際の画像を使って説明していただきました。特に早期に発見できると5年生存率が97%になることから、40歳以上の方は大腸がん検診、大腸カメラを1年に1回は必ず受けてほしいというお話をされました。

守田先生からは、がんの仕組み等を説明していただき、がんは2人に1人の病気であり、50歳位からがんになる人が増えてくる傾向があるため、必ずがん検診を受けてほしいということと、診療や治療方法等についてわからないことがあればなんでも尋ねてほしいということをお話されました。

会場に集まった100名の方々は普段聞くことができない貴重な先生方からのお話に、メモを取りながら熱心に聴講していました。

キタスカ講演会

「出会いに生かされて」



講師：斉藤 とも子 氏(女優/社会福祉士/介護福祉士)

日時：令和6年3月9日(土)13時半～15時



「人は、誰でも様々な出会いや縁によって生かされているものです。」

斉藤とも子さんがこれまでに体験したご自身の生い立ちや、被爆者の方々との交流についてお話されました。

学生時代、早くに母親を亡くしていたためいつも麦ごはんの茶色いお弁当をフタで隠して食べていたが、友人の母が斉藤さんの分のお弁当も一緒に作ってくれた際に、卵焼きやウインナーなどカラフルでお花畑のようなお弁当でとても感動し、当時は何もお返しできなかったが、せめて母親くらいの年代の方にお返しをしたいという思いで社会福祉の勉強を始めたとのことでした。

被爆者の方々との交流については、舞台上で被爆者の役を演じたことから実際に被爆者の方から被爆体験を聞くなど交流をもち、現在でも親しくされているとのことでした。



講演会終了後は、斉藤さんが出版した「きのこ雲の下から明日へ」や、この日朗読していただいた加賀友禅作家の志田弘子さん著の「きっと、きっと」等の書籍を販売し、サインや写真撮影に応じていただきました。

これからの時代に本当に大切なことや社会や地域、人とのつながりについて改めて見つめなおせるような心にしみる講演会となりました。

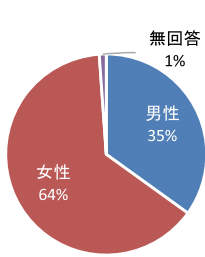
令和5年度利用者アンケートの結果

令和6年2月実施

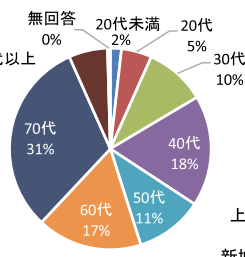
協力者 450名

問1. ご自身についてお聞かせください

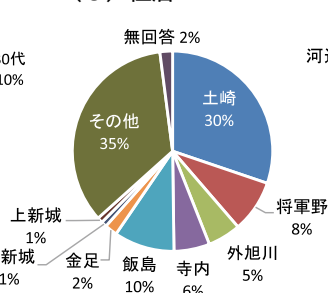
(1) 性別



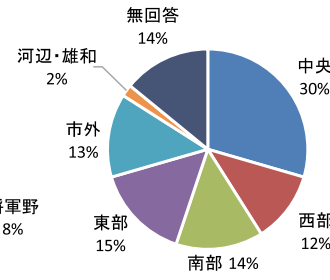
(2) 年代別



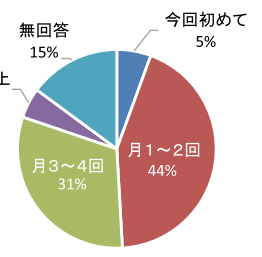
(3) 住居



※住居（その他の回答）

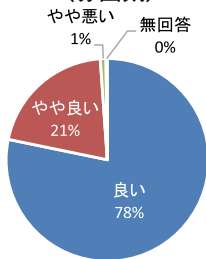


(4) 利用頻度

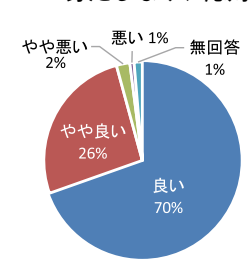


問2. キタスカの利用について

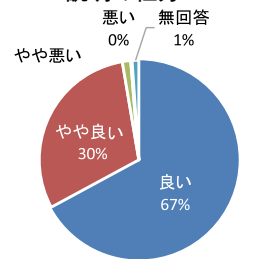
(1) 全体的な印象（雰囲気）



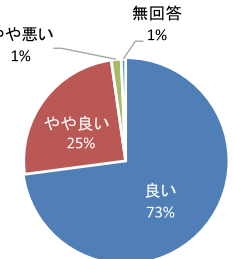
(2) 職員のあいさつ、身だしなみ、対応



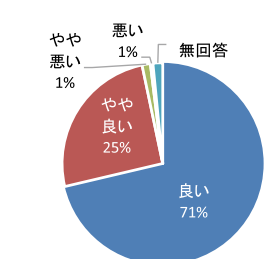
(3) 施設利用に関する説明の仕方



(4) 施設の使い勝手



(5) 備品の使いやすさ



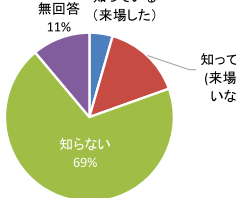
問3. 北部地域住民自治協議会の自主事業について

(1) 自主事業についてお聞かせください。

・キタスカ講演会『藤田 智の野菜の時間です!』(R5. 2/ 25)

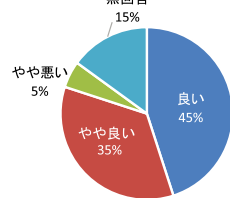
(1) - A

上記に記載しました事業はご存知でしたか?



(1) - B

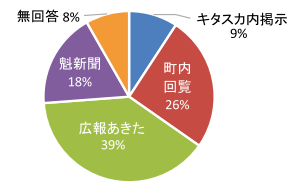
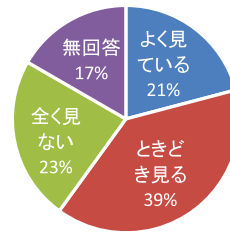
来場した方は、その内容はいかがでしたか?



(2) 自主事業のPR（町内会の回覧、広報あきた、魁新聞等）は見られていますか？

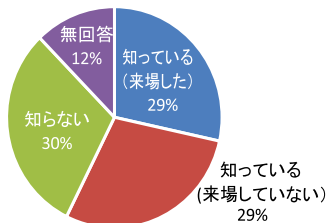
(2) - A

見ている方は主に何をご覧になっていますか？ 複数回答



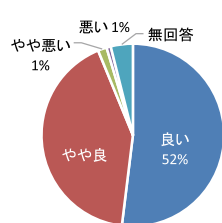
問4. キタスカまつり（キタスカまつり実行委員会主催）についてお聞かせください。

(1) キタスカまつりの実地をご存知でしたか？



(1) - A

来場した方は、その内容はいかがでしたか？



(1) - B

良い・やや良いと答えた方に、良かったと思ったイベントをお聞かせください。（複数回答可）

作品展示	19%
北部地域特産物直売	11%
喫茶コーナー	9%
生涯学習相談	0%
健康相談	2%
フリーマーケット	7%
販売コーナー	6%
秋田万歳公演	2%
大黒舞歌謡ショー	4%

(1) - C

今後どのようなイベントをお望みかお聞かせください。

- 軽食コーナー 9%
- お茶会 4%
- フレイル予防運動出前講座 1%
- はじめてのスマートフォン教室 2%
- ダンスパーティー 5%
- 芸能発表会 14%
- キッチンカー 2%
- 無回答 3%
- 生バンド
- 芸能人を呼んでほしい
- 秋田名物の食べ物や、無形遺産物の出し物
- 音楽を中心としたイベント
- 各サークルからの指導
- ・・・など

～その他ご意見・ご要望等～

- ・キタスカまつりの作品展示品が少なくなっている。
- ・都度申込用紙を書くのが大変。事前にもらえたり、何日分も申し込みできるとありがたい。
- ・いつも親切に対応してもらっています。窓口では素早く腰を上げてくれて、嬉しいことです。
- ・音響設備がやや古くて使いづらい。
- ・現状のままでいいです。

- ・オフィシャル用具が古く、たまに動かないときがある。道具の更新をお願いしたい。
- ・21時まで使用可なのに、「出て行け」という時間が早すぎる時がある。
- ・キタスカまつりはおおいに歓迎します。

ご協力いただきました皆様、貴重なご意見

ありがとうございました。

今後の運営の参考にさせていただきます。



～北部地区～ ぐるっとまち歩き



第8回 下新城地区

下新城地区振興会
副会長 石川 平臣

下新城地区は、秋田市の北部に位置しております。北に金足、湯上市天王、東に上新城、南東に外旭川、南に飯島、西に日本海に接しております。

河川としては、「新城川」があり、秋田市の北部に位置する太平山地の俎山(まないたやま)を源流にして、途中、上新城地区の「道川」と合流して、下新城地区を経過して飯島地区で旧雄物川へ流れ込む流路延長19.1km、流域面積69.9km²の雄物川水系の一級河川となっております。

歴史を辿ってみると、出羽国秋田郡焼岡村の一部となっており、貞和年間(1345-1350年)に新城(岩城)右衛門太夫安信が現在の下新城岩城に丘城岩城館を築城後に新しい城ということから「新城」と呼ばれるになりました。その後1889年(明治22年)4月1日の町村制施行に伴い、岩城村、小友村、青崎村、笠岡村、長岡村が合併し南秋田郡下新城村が発足し、1954年(昭和29年)10月1日に秋田市に編入されて現在に至っております。

地域の課題として、新城川河川改修があります。江戸時代の紀行家・菅江真澄が記録した「軒の山吹」(秋田市金足・新城周辺)文化8年(1811年)の紀行文に以下の記録がありました。



①「新城の荘たる岩城の村に、下箇所、上ヶ枝とて二の高橋あり、俚人下向といへり洪水のために片岸破れて階よりしてのぼる。あやうさいふへからず

②「上箇枝の高橋を涉りて、槻ノ木村に至る。むかしは披の脇、大畠ヶ馬ノ丈へ出て行しとなん」

新城川は、岩城地区と堰根地区で大きく蛇行しているため、213年前の記録にある様に過去に度々洪水被害を受けてきましたが、2023年

7月14日～7月16日にかけての48時間総雨量が秋田市では統計開始以来の記録を更新しました。結果、上新城地区、下新城地区の水田が冠水し、広大な遊水池と化してしまうとともに、下新城地区で床上浸水90戸、床下浸水53戸と過去最大の被害となりました。

このことから地区住民団体として、秋田県に「一級河川新城川の河川改修等にかかる要望書」を提出させて頂き、その結果として、地域住民の生命と財産を洪水被害から未然に防ぐために河川改修工事を6年前倒しして実施して頂くことになりました。

今後とも行政と地域住民が連携を密にして河川改修工事の早期完成に向けて取り組んでまいります。



・現在の高橋と低橋 R5. 7/15 午後の氾濫状況